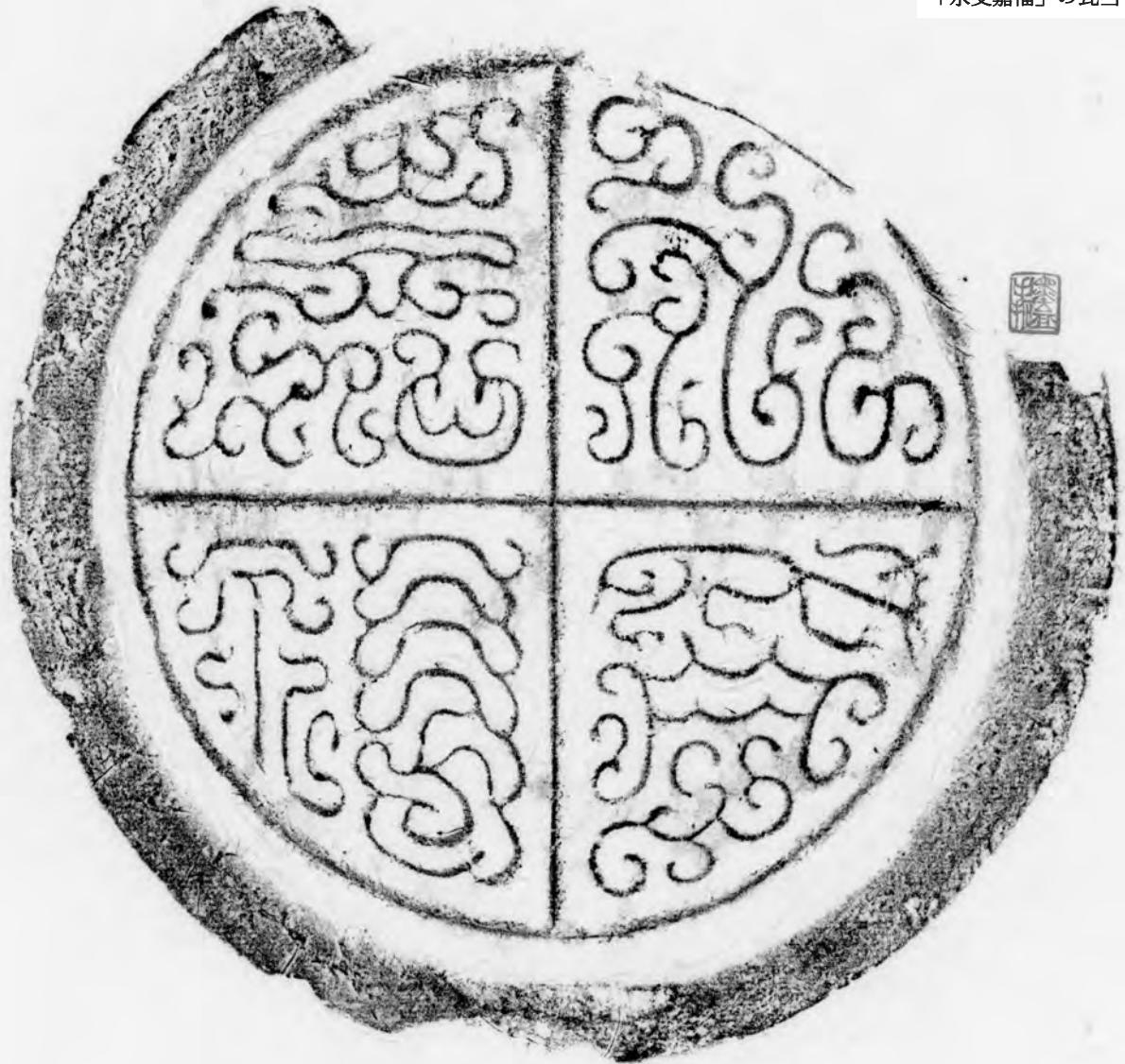
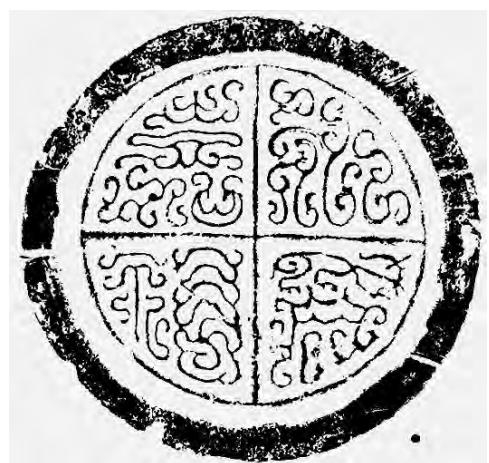


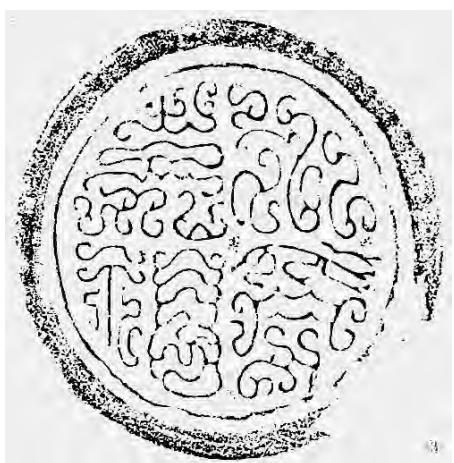
主図版①
「永受嘉福」の瓦当



図版②-1 「永受嘉福」



図版②-2 「永受嘉福」 縦横の界線のない例



「秦漢時代の瓦当と磚文」

⑤「永受嘉福」字瓦当 後漢時代

図版③ 「永受嘉福」瓦当 原物



「永受嘉福」(えいじゅかふく)の四文字の瓦当文である。漢時代の篆書であるが、大変読みにくい書体である。「鳥虫篆」と称される篆書体の一類である。半円の短い曲線を基本にして装飾的な篆書構成を作り出している。普通の篆書を参考にして比較すると、どうにか篆書の文字構成を確認出来る。漢時代の瓦当文で、この種の鳥虫篆を用いた瓦は、これが唯一である。書体の珍しさと発見される数の少なさのために、清末民国期には、この瓦は大変珍重された。そのため偽物も製作された。漢時代の本物の瓦の面の文字や紋様を削り取り、その上に新たにこの「永受嘉福」の鳥虫篆を篆刻する。物は型押しで制作されているが、偽物は刀で彫り出されているので、文字の表面の凹凸の趣が異なる。この種の偽物を拓したものの見分けるのは大変難しい。今回の拓本は、家蔵の原瓦を拓したのが、右侧の主図版①である。参考に二種の拓本(図版②-1、2)を付した。

皆さんの忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせください。

伊藤滋(書齋名・木鶲室)

書道芸術院

平成の群像（2017）

「現代書」



阿 部 珠 翠

れは、無意識に前衛書の線と構成に重きを置く発想だったのだとは思っております。

前衛書（河北展出品作）「屈」は、画用

紙と白と黒のリキテックス（アクリル絵具）を使用。白黒のグラデーションで「屈」の字の“結構と意”を表現いたしました。

原稿依頼に戸惑いながらも頼みれば、恩師・加藤翠柳先生に31年間、加藤白柳先生に17年間の長きに亘り、ご指導頂きました。翠柳先生には、「永遠の書を生む原動力は、臨書の鍛錬より外にない」と徹底した法帖との対峙の仕方と書線の追求を。白柳先生には、「心象芸術である前衛書」の心の煮つめ方と用具・用材の自由な選択肢をそれぞれご指導頂きました。

掲載の現代詩文書（書道芸術院展出品作）「放哉句」は、反古を重ねる内「ただ風ばかり」の語に強く想いが至り、その部分だけカタカナに変換、筆も長峰熊毫筆を使用し、「句」全文は小さく添えました。カタカナへの変換が“是か非か”も考えず仕上げたのですが、こ



「放哉句」（書道芸術院展出品作）



「屈」（河北展出品作）

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第70回記念書道芸術院役員作品巡回展 北関東総局展 盛大に開催

創立70周年を迎えた書道芸術院は2月の本展を盛況の裡に終了し、記念事業のメイン事業として全国13の総支局を巡回する「役員作品巡回展」を開催中。千葉県・茨城県をエリアとする南関東総局展を皮切りに、東北総局展が仙台にて開催し盛況であった。(既報)3月31日～4月3日まで群馬県高崎市にて北関東総局展が高崎シティギャラリーにて役員作品巡回展と共に開催、4月1日13時30分より会場にて作品解説会が院担当理事ほかにより100名余の参加者が集つて行われた。辻元大雲理事長による書道芸術院の歴史、特色などの全体解説、石井明子、稻垣小燕各担当理事からは持參の作品や筆をもとに作品制作にかける様々な想い、苦労などを具体的に話され参加者の共感を誘つた。

また同席された後藤大峰、小竹石雲、下谷洋子各常務理事、さらに種谷萬城、田守光昭、金井如水理事にもご発言いたしました。会場は壁面の高さが5m余りで広々としており、総局会員の展示作品数も

ある展示となつた。作品効果などを考慮しての英断であったと思う。夕刻5時より会場をホテルメトロボリタン宴会場に移し、財団役員のほかご当地のご来賓などをお招きしての祝賀懇親会が盛大に開催された。

同 山陽支局展 山口県防府市にて開催

4月7日～10日、山陽支局展が山口県防府市地域交流センター「アスピラート」で開催。JR防府駅のすぐ隣に位置し、展示会場も明るく素晴らしい会場であった。山田梓江支局長の社中展も45周年記念で連続した建物のホールにて開催されており、タイムリーな企画展示となつた。

7日初日には12時より開幕セレモニーがご来賓をお招きして開催され、テーブルカットも行われた。

13時より会場内にて作品解説会が担

当理事を中心に行われ、辻元大雲理事長による基調解説「書道芸術院の書」に続き担当の後藤大峰常務理事、浜田堂光理事の部門ごとの特色解説、更に小竹石雲、下谷洋子常務理事、名越蒼竹、牧泰壽理事、地元の竹本龍江、主管の山田梓江評議員にもお話しいただき充実した解説会であった。

3時から会場を移し、130名余の参加者をいただいて祝賀懇親会が賑やかに開催された。ご当地名物の余興「笑い合戦」なども色を添え盛会であった。

*今後の予定

・7月11日～16日 四国支局展

高知市文化プラザかるばーと

・7月20日～23日 甲信越支局展

伊那文化会館

・7月28日～30日 北陸支局展

高岡文化ホール

・8月以降11月まで各地にて開催。

・10月18日～25日 ウィーン展

・10月28日～30日 北陸支局展

・10月28日～30日 北陸支局展

新井光風作品展Ⅱ 盛大に開催

日展理事、謙慎書道会顧問の新井光風先生の2回目の個展が「八十歳・命のかたち」をサブタイトルにすべて新作で東京銀座画廊7階全館を使用して開催された。新井先生には11月23日本院創立記念日特別講演をお願いしてご快諾いただいている。乞うご期待。



石井理事による解説

「書道芸術学生版」手本監修結果

本院では毎年4月に前年度発行された「書道芸術学生版」参考手本など編集内容全般にわたり外部の識者に監修をお願いしており、今回も前文部科学省初等中等教育局教科調査官の長野竹軒東京学芸大学名譽教授に依頼しご意見を見をいただいた。

監修内容、ご意見など参考手本に閲してお伝えする必要あるものに限り、執筆者ご本人にお知らせした。一般的には教材に対する執筆者の意識の向上が見られ良好とのご意見をいただき、



新井先生（個展会場にて）

故貞政少登先生お別れ会

昨年は書道界の重鎮が相次いでご逝去され、誠に痛恨の思いであった。

独立書人団の貞政少登先生のお別れ会が4月22日（土）午後、上野精養軒で多数の関係者が集いしめやかに挙行された。ご冥福を心よりお祈りしたい。

一部用語、字形にやや疑問点があるなどのご指摘をいただいた。書道芸術院の特色や持ち味を生かしながら、文部科学省の學習指導要領に準拠した競書雑誌を目指している。皆様方のご理解とご支援、ご協力をお願いしたい。

現代詩文書 (二)

山田梓江

篆刻・刻字 (二)

清水翠径



第1回 山口県書を楽しむ人たち展 正岡子規の句 山田梓江書

山口県に在住の書作活動をしている人を募り、平成20年に「書を楽しむ会」を発足しました。最初10人の有志が発起人になり、中央の団体に所属し、審査員格の人で書の楽しさを地方から発信していただける人達に声をかけました。60人の会員が集まり第1回目の書

作展を開催することが出来ました。

今年第10回展になりましたが、初回の会場と同じ下関市立美術館で開催され、記念すべき第1回目の出品作の写真を久しぶりに出してみて懐かしいと思い、今回掲載させていただきました。

殺風景な田園風景の中、一か所だけ春の光を受けて黄色に輝く美しい菜の花畠が広がり、傍に近づくとワクワクとする明るい気分を表現したく、先ず黄色の顔彩を使いました。大きな刷毛で左から右へ太い線を描き、菜の花の雰囲気を出し、その上から書き出しをしていき遠近感を狙った作品です。

題材は出会いだと思います。

自分がどのような状況に置かれているかにより書く物が違ってきます。山口県民でありながら10年前までは山口県に貢献していなかつた自分に気がつきました。今は地元から書の楽しさを伝えていきたいと頑張っています。

21世紀の書

—私の主張—



「白居易詩」

NHKの大河ドラマ「独眼竜正宗」のタイトル映像、刻字作品を見るにつけ、作者の長揚石先生のことを思い出します。先生との師弟関係の贅沢な時の経過、また地元の長野県で開催された講習会でのご教示、ご指導後帰京され何日もしないうちに知られたご逝去の報に会者常離の念に浸った時も、また懇親会で歌われた北島三郎の「風雪ながれ旅」の小節の利いた歌声とともに、今となつては懐かしい思い出となつてしましました。

当時の作品作りは会友仲間で競って多字数作品を製作しました。書道芸術院展、毎日書道展等に条幅サイズの桂材に50字か

ら100字を超える漢詩を刻すことが普通になっており、今さら競争原理のバイタリティーに頭の下がる思いです。何も知らず刻字書道に飛び込んだ新人们对、指導者の先輩は必ず自書自刻が基本である事を説かれ、漢詩の選定が始まると、字体を決定します。多くの刻字作品の場合、篆書体、金石、小篆、印篆を引用し、画箋紙（シミやカスレが多く出ないもの）を板の実物大にして一字ずつ適当する大きさに書いて文字ごとの恰好を練ります。できあがった書を少し離れたところから眺め長短、上下、太い細いという点に気をつけ自分が納得するまで修正にとめます。次回はカゴ字、双鉤について申し述べます。

第70回記念書道芸術院展続> (併催 第68回全国学生書道展)

特集：第70回記念書道芸術院展

第70回記念書道芸術院展（併催第68回全国学生書道展）について、平成28年3月12日開催の理事会に於いて、その大綱が次のように決定された。

- 第70回書道芸術院展
 - 1.会期 平成29年2月16日(木)～2月21日(火)
 - 2.会場 東京都美術館（上野公園内）
 - 3.募集規定
 - ア.無鑑査、一般部公募の部
 - ・作品・書類搬入
 - ・鑑別・審査 平成28年12月15日
 - 平成29年1月14日・15日
 - イ.審査会員、審査会員候補の部
 - ・書類搬入 平成29年1月26日
 - ・作品搬入 平成29年2月8日
 - ウ.審査
 - ・審査会員候補 平成29年2月9日
 - ・審査会員 平成29年2月10日
 - 4.特別企画展示・講演会
 - 「日本の上代金石拓本」
 - 「世界の記憶」登録に向けて
 - 上野三碑を中心には
 - 伊藤滋先生講演会（都美術館講堂）
- 平成29年2月16日

第70回記念書道芸術院展（併催第68回全国学生書道展）について、平成28年3月12日開催の理事会に於いて、その大綱が次のように決定された。

- 第70回書道芸術院展
 - 1.会期 平成29年2月16日(木)～2月21日(火)
 - 2.会場 東京都美術館（上野公園内）
 - 3.募集規定
 - ア.無鑑査、一般部公募の部
 - ・作品・書類搬入
 - ・鑑別・審査 平成28年12月15日
 - 平成29年1月14日・15日
 - イ.審査会員、審査会員候補の部
 - ・書類搬入 平成29年1月26日
 - ・作品搬入 平成29年2月8日
 - ウ.審査
 - ・審査会員候補 平成29年2月9日
 - ・審査会員 平成29年2月10日
 - 4.特別企画展示・講演会
 - 「日本の上代金石拓本」
 - 「世界の記憶」登録に向けて
 - 上野三碑を中心には
 - 伊藤滋先生講演会（都美術館講堂）
- 平成29年2月16日

第70回記念書道芸術院展（併催第68回全国学生書道展）について、平成28年3月12日開催の理事会に於いて、その大綱が次のように決定された。

- 運営委員会
 - 13.運営委員会
 - 1.30歳以上 7000円
 - 2.30歳未満および70歳以上 3000円
 - (平成29年1月1日現在)
- 運営委員長 辻元大雲
- 12.一般公募出品料
 - A.180×180 180×240
 - 2.その他 変更なし
- 11.出品作品サイズ（単位cm）
 - 1.財団理事・監事
 - 2.30歳以上 7000円
 - 3.30歳未満および70歳以上 3000円
- 10.祝賀懇親会（帝国ホテル） 平成29年2月19日
- 9.功労者表彰（帝国ホテル） 平成29年2月19日
- 8.物故者慰靈祭（帝国ホテル） 平成29年2月19日
- 7.一般表彰式（帝国ホテル） 平成29年2月19日
- 6.学生展表彰式（帝国ホテル） 平成29年2月18日
- 5.作品研究会（都美術館） 平成29年2月18日

第70回記念書道芸術院展（併催第68回全国学生書道展）について、平成28年3月12日開催の理事会に於いて、その大綱が次のように決定された。

- 運営委員会
 - 1.運営委員会
 - 1.運営委員会
 - イ.部門 ①半紙の部 ②半切½の部、両部門に出品できる。
 - ウ.作品縮め切り・搬入
 - 2.運営委員会
 - オ.褒賞 A.個人賞 B.団体賞
 - 2.運営委員会
 - 平成28年11月3日～5日
 - オ.褒賞 A.個人賞 B.団体賞
- 運営委員長 辻元大雲以下実行委員長、実行副委員長、陳列部長、会計部長、事務局長、次長は院長、会員共通。
- 審査委員長 小浜大明
- 審査員 勝山初美
- 審査員 尾形澄神
- 審査員 千葉蒼玄
- 審査員 浜田堂光
- 審査員 川島舟錦
- 審査員 稲垣小燕
- 審査員 小浜大明
- 審査員 最首翠風
- 審査員 坂本素雪
- 審査員 稲垣小燕
- 審査員 小浜大明
- 審査員 嶋峨大拙
- 審査員 下谷洋子
- 審査員 田守光昭
- 審査員 種谷萬城
- 審査員 小林琴水
- 審査員 後藤大峰
- 審査員 金井如水
- 審査員 石井明子
- 審査員 板垣洞仙
- 審査員 辻元大雲
- 審査員 オ.褒賞 書道芸術院大賞（1名）
- 審査員 書道芸術院準大賞（各部を通して 5名）
- 審査員 第70回展記念賞・白雪紅梅賞（各部を通して 若干名）の他、同候補となつた作品については昨年と同様「書道芸術院俊英賞」とする。
- 選考委員は運営委員（財団理事・監

表彰部長 佐久間幸扇
揮毫部長 大平岳峰
本部役員（公益財団法人理事、監事、評議員、参事）
3.審査役員
A賞審査員（6名）、A賞選考委員（8名）、中央審査員（19名）

実行委員長

下 谷 洋 子

実行委員長 下谷洋子
実行副委員長 小竹石雲
後藤大峰

A賞審査員（6名）、A賞選考委員（8名）、中央審査員（19名）

4.指導者作品展示（15点）
5.作品研究会（都美術館）
6.学生展表彰式（帝国ホテル）
7.一般表彰式（帝国ホテル）
8.物故者慰靈祭（帝国ホテル）
9.功労者表彰（帝国ホテル）
10.祝賀懇親会（帝国ホテル）
11.出品作品サイズ（単位cm）
12.一般公募出品料
13.運営委員会
14.実行委員長 下谷洋子
15.事務局長 前田龍雲
東福青篁
16.部長 総務部長 福島李舟
審査部長 金井如水
陳列部長 田村鄭雲
祝賀会部長 麻生峰扇
会計部長 白石和楓
ア.出品資格
1.出品規定
・書道芸術院審査会員
・作品寸法
・半紙額内自由
1.出品規定
ア.出品資格
1.運営委員会
・運営委員会
会を平成28年6月11日 東神田事務所に於いて開催。
○運営委員会
・運営委員会
○運営委員長 辻元大雲
・運営委員会
イ.部門 ①半紙の部 ②半切½の部、両部門に出品できる。
ウ.作品縮め切り・搬入
平成28年10月24日
○運営委員会
2.運営委員会
オ.褒賞 A.個人賞 B.団体賞
平成28年11月3日～5日
○運営委員会
オ.褒賞 A.個人賞 B.団体賞
平成28年11月3日～5日
○運営委員会
オ.褒賞 書道芸術院大賞（1名）
○運営委員会
書道芸術院準大賞（各部を通して 5名）
○運営委員会
第70回展記念賞・白雪紅梅賞（各部を通して 若干名）の他、同候補となつた作品については昨年と同様「書道芸術院俊英賞」とする。
○選考委員は運営委員（財団理事・監

特集：第70回記念書道芸術院展

美術館副館長・名児耶明様の三人に依頼、外部からの作品評価をいただいた。直筆での寸評は作品脇に掲示し、さらに印刷して参観者にも配布した。

麻生泰久の眼||赤澤東洞、天野白扇、岡紅水、岡村千恵、真下京子の各氏。

田宮文平の眼||赤羽蘭径、飯田春香、大町青蓮、佐藤菜扇、西岡雨瑞、松村

くに子の各氏。

名児耶明の眼||後藤法明、九條純代、阿部青沙、大隅晃弘、天野白扇の各氏。

○記念講演会

2月16日午後2時、東京都美術館講堂にて伊藤滋先生のご講演を行った。伊藤先生には今回企画展示の監修をお願いし、この講演会に於いても、上代金石の魅力についてプロジェクターを用いた解説が好評だった。外部の先生方も多数お見えいただいた。

○作品研究会

2月18日午後2時、展示会場第1室に於いて研究会を行った。

担当は漢字・種谷萬城、かな・下谷洋子、現詩・小竹石雲、篆刻・刻字・後藤大峰、前衛・板垣洞仙の各部の代表選考委員があつた。総評は辻元大雲運営委員長が行う。たくさんの方々が参加して下さり、賑わう研究会となつた。

○全国学生書道展表彰式

平成29年2月19日午前11時より、帝國ホテル富士の間に於いて、毎日新聞社事業本部総務・企画部長・三岡昭博様、小伏竹村顧問をお迎えして表彰式を挙行した。

表彰状の授与は、辻元大雲運営委員長はじめ財団理事、監事が務めた。毎

日小学生新聞賞、毎日新聞社賞については、三岡昭博様にお願いした。

帝国ホテルでの三回目の表彰式。

務局次長・片岡豪峰の手配もよく、良い表彰式を挙行。総務部長・勝山初美、表彰部長・佐久間幸扇、揮毫部長・大平邑峰の各氏に感謝。

○書道芸術院展表彰式

学生展表彰式に統じて同会場にて、書道芸術院展の表彰式が挙行された。

ご来賓は毎日書道会専務理事・糸賀靖夫様、小伏竹村顧問をお迎えした。

春華賞、大賞、準大賞、記念賞は、辻元大雲運営委員長より授与。以下の各賞については、財団の理事、監事によって授与。糸賀様には毎日新聞社賞の授与とともに激励のご祝辞をいたしました。

最後に受賞者を代表して、書道芸術院大賞に輝いた現代詩文書部・錢谷雪

蘭さんからの謝辞があった。

○物故者慰靈祭

表彰式終了後、午後4時より同会場を模様替えし、物故者慰靈祭を行った。

辻元大雲理事長の挨拶の後、ご遺族・財団の役員の献花、ご遺族代表として種谷萬城氏のご挨拶があった。

なお、慰靈祭に先立ちしのぶ言葉一の冊子が作成された。

○功労者表彰

会場を孔雀の間に移し、祝賀会に先立ち午後5時半より、70周年記念事業の一環としての功労者表彰を行う。

名譽会員は故恩地春洋、香川倫子、木

村船翠、小伏竹村、齋藤雨城、砂本杏花、鳥山岳風、西林乘宣、浜谷芳仙、

宮澤梅径、村野大仙氏の11名。

参考事は飯高和子、大野祥雲、加藤眺溪、小伏小扇、滝 春芳、牧 泰濤氏の6名

院関係団体は玄遠社、白扇書道会、書道芸術院四国支局、青木法律会計事務所の4団体がこれまでのご功績を称え

ご受賞された。

○祝賀懇親会

功労者表彰終了後、直ちに祝賀懇親会の開宴となる。

開会のことばは下谷洋子常務理事。

統いて辻元大雲理事長により主催者のあいさつ。ご来賓のご祝辞は、毎日新聞社代表取締役会長・朝比奈豊様、(公社)全日本書道連盟理事長・星弘道様、書道評論家・麻生泰久様の三名よりいたいた。

その後ご来賓15名による鏡開きが行われ、乾杯は毎日書道会専務理事・糸賀靖夫様のご発声で開宴となる。

ご来賓は書家や報道関係者・評論家の各方面の方々106名がご出席下さり、芸術院からは540名ほどのお仲間が集い、芸術院からも540名ほどのお仲間が集い、盛大で和やかな宴となつた。評論家の眼に選ばれた人の紹介や、春華賞受賞者・佐久間幸扇さんはじめ、たくさんの方々との交流も賑やかな宴だけなわとなる。

最後に、小竹石雲常務理事の閉会のことばで惜しまれつつ全て終了した。

○表彰式・祝賀会部

膨大な事務局作業をコンピューターを駆使。事務処理担当の拂リンクスとの連携を密にして進めていただいた。

各部の当番審査員並びに事務委員の人数割出に始まり、出品個票の出力、搬入統計の集計、賞の配分、審査結果の通知、陳列計画、出品者自録作成、作品配置、多勢の祝賀会座席配置など、また今回はご遺作展示、物故者慰靈祭、功労者表彰と、通常より増えた事業を、

総務、審査、陳列、祝賀会、会計とあらゆる部署と連携し事務処理に関わっていただいた。

前田龍雲事務局長、東福青草・片岡豪峰事務局次長のご苦労に対し、深く感謝申します。

事務局を中心準備、進行された。

学生展、院展とも総務部は、書類搬入から作品搬入、整理、審査準備、表彰式、祝賀懇親会、撤回、搬出など、長期に亘りご苦労頗った。

○審査部

学生展は小浜大明審査部長、一般は金井如水審査部長のもと、事務局、総務部との連携もよく、審査、事務処理ともに順調に進めていただいた。竹本龍汀副部長はじめ委員の方々に感謝。

会計部

会計部は学生展と第70回記念展の全てに亘り、膨大な予算を緻密な計算によつて滞りなく処理していただき、事業終了後の残務も含め、白石和楓部長に心から感謝。

○運営事務局

院展、学生展、運営の全てに関わり、膨大な事務局作業をコンピューターを駆使。事務処理担当の拂リンクスとの連携を密にして進めていただいた。

各部の当番審査員並びに事務委員の人数割出に始まり、出品個票の出力、搬入統計の集計、賞の配分、審査結果の通知、陳列計画、出品者自録作成、作品配置、多勢の祝賀会座席配置など、また今回はご遺作展示、物故者慰靈祭、功労者表彰と、通常より増えた事業を、

総務、審査、陳列、祝賀会、会計とあらゆる部署と連携し事務処理に関わっていただいた。

前田龍雲事務局長、東福青草・片岡豪峰事務局次長のご苦労に対し、深く感謝申します。

書道芸術院創立70周年記念

役員作品巡回展

併催 南関東総局展

会期 平成29年3月7日(火)～12日(日)

会場 千葉県立美術館

寒行委員長(南関東総局長)

種 谷 萬 城

書道芸術院創立70周年記念役員巡回展・南関東総局展は、総局・支局のトップを切って3月7日(火)から12日(日)まで、千葉県立美術館で開催された。3月6日(月)の陳列は田村鄭雲陳列部長の陳列計画に基づき、陳列部委員および会員相互の応援により、スムーズな運営のもと6室には役員作品巡回展作品、書道芸術院役員の大作、役員作品、五室には南関東総局の書道芸術院展の出品作品、入選の希望者作品が、整然と飾られた。

今回は、役員作品巡回展、南関東総局展は、書道芸術院展との間隔が近かったため、院展出品作品(褒状以上の希望者)及び、入選の希望者まで含めて陳列した(計470点)。11日(土)には、午

後2時30分から辻元大雲理事長による作品解説会を、県立美術館講堂で開催し、第70回記念書道芸術院展の役員作品の解説、また、担当理事、監事の小竹石雲先生、尾形澄神先生のコメントも頂き、大変和やかな中での解説会となつた(参加者150名)。

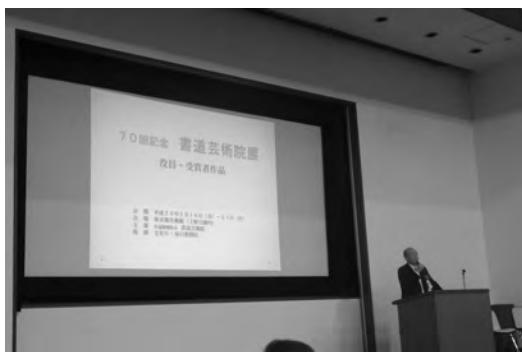
午後5時からは、ホテルポートプラザちばにて、ご来賓として毎日新聞社千葉支局長・千代崎聖史様、成田山書道美術館学芸員・山崎亮様並びに巡回展出品者のご出席を賜り、盛大に祝賀懇親会が開催された。席上、第70回記念書道芸術院展の入賞者の紹介があり、春華賞から優秀賞までの入賞者から喜びの声を聞くことができた。

出席者からは、展覧会の整然とした陳列は勿論、楽しく和やかな中での祝宴に、出来れば毎年千葉で開催してほしいとの声もあった。

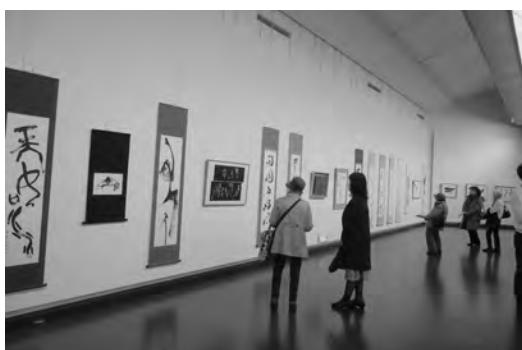
展覧会6日間の来場者は約900名で、役員巡回展作品もバラエティに富み、作品サイズも変わったことから大変好評であった。

12日(日)最終日は午後4時半から撤回作業が行われ、無事、南関東総局展は終了した。

平成28年10月から準備にあたられた相談役、事務局役員の皆様に感謝して、南関東総局展の報告とします。



辻元理事長による作品解説会



巡回展会場



熱心に聞き入る参加者



南関東総局展会場風景



巡回展会場



種谷実行委員長（南関東総局長）あいさつ



整然と陳列された作品群



役員作品巡回展出品者紹介



下谷常務理事による乾杯



書道藝術院展受賞者紹介



祝賀懇親会会場

牛 櫟造像記

(北魏) ②

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

<解説>

当該古典の左記掲載部分以外も可。



彌勒像一區。願／牛櫟捨於分段／之鄉。騰遊無礙／之境。若存託生。

先月号の原碑の大きさは、正しくは縦66×横33.5cmです。

掲載図版75%縮小

(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

お詫びして訂正します。

「造像記」とは、造仏の由来や願文を刻したものである。中国・河南省の洛陽郊外にある龍門石窟は造像記の宝庫といわれ、世界文化遺産にも登録されている。龍門には、2千百以上もの石窟があり、造宮は北魏から唐までの500年余り続けられた。その最も古い石窟が古陽洞である。ドーム状の内部には、大小の仏像と造像記が側壁から天井まで一面に彫られている。

牛櫟造像記は、力強く、角張った方勢の切れ味鋭い書風が特徴である。点画は直線的で、横画・縦画の起筆・收筆が明確である。字形は右肩上がりであり、扁平で懐が広い。また、無骨で野趣に富んだ龍門造像記の特徴を示しながらも、間架を均等にするなど、理知的な結構法を見せてている。

当該古典の左記掲載部分以外も可。

(伝) 小野道風筆

②

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

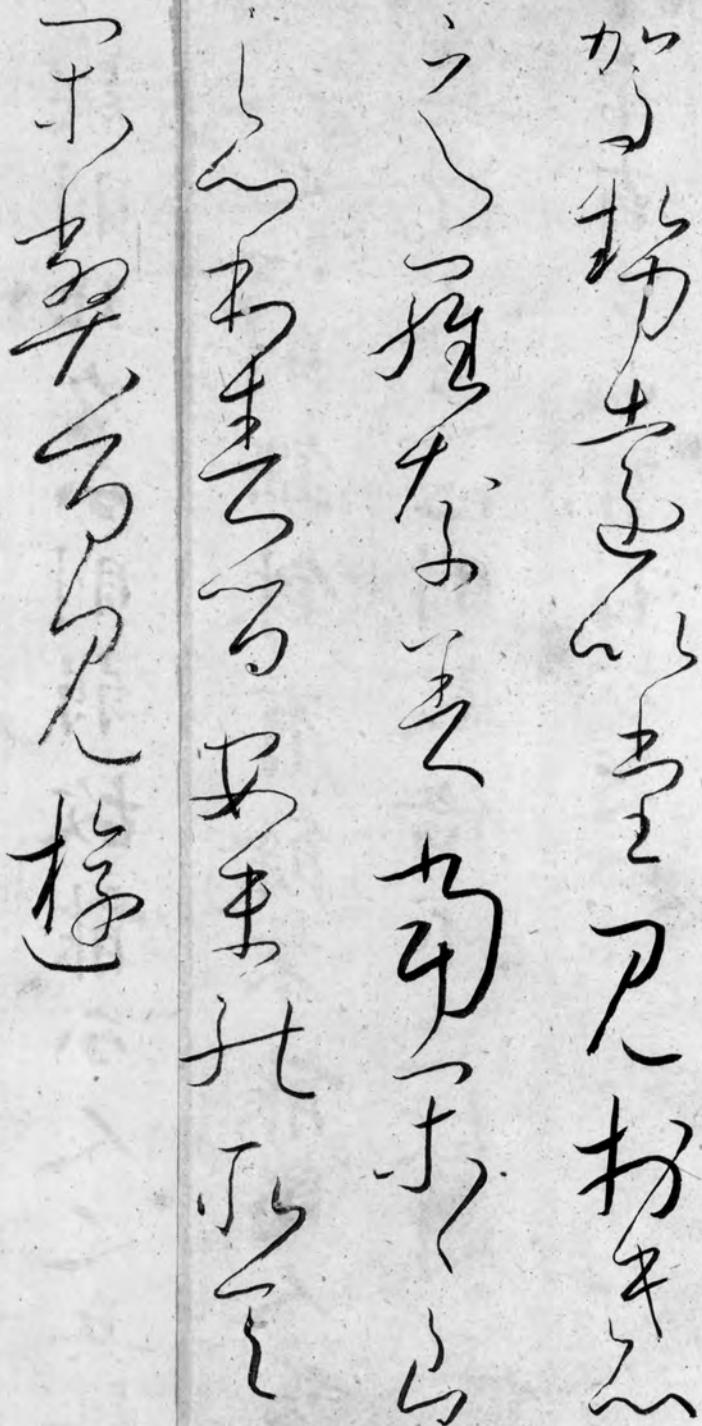
<よみ>

かぜをいたみおきつ
之の奈良開
らなみたかくら
しづつりするあまのそで
かへるみゆ
か門利春留安能所天
か見遊

「秋萩帖」は、和歌一首すべて4行書きで書写されている。
連綿の少ない放ち書きながら、気脈の通じた書風で、優美な
字形、巧みな墨継ぎが見事である。古くから第1紙(2首)
は小野道風、第2紙目以下(46首)は藤原行成の筆と伝え
られているように、1紙目と2紙目以降の書風は、類似する
が明らかに異筆である。1紙目の四方の不自然な余白、2紙

目以降のやや筆勢に乏しい慎重な筆運びなどから、道風の時
代よりも下る臨写本と考えられている。しかし、1紙目およ
び2紙目以降を臨写する際に用いられたとされる原本の「綾
地歌切」は、小松茂美博士により道風自筆と明らかにされた。
「秋萩帖」は、筆者・書写年代について諸説あるが、平安時
代の草仮名の様子を示す代表的な名品である。

(編集部)



(東京国立博物館蔵)

※掲載図版93%縮小

習い方解説 (二)

稻垣 小燕

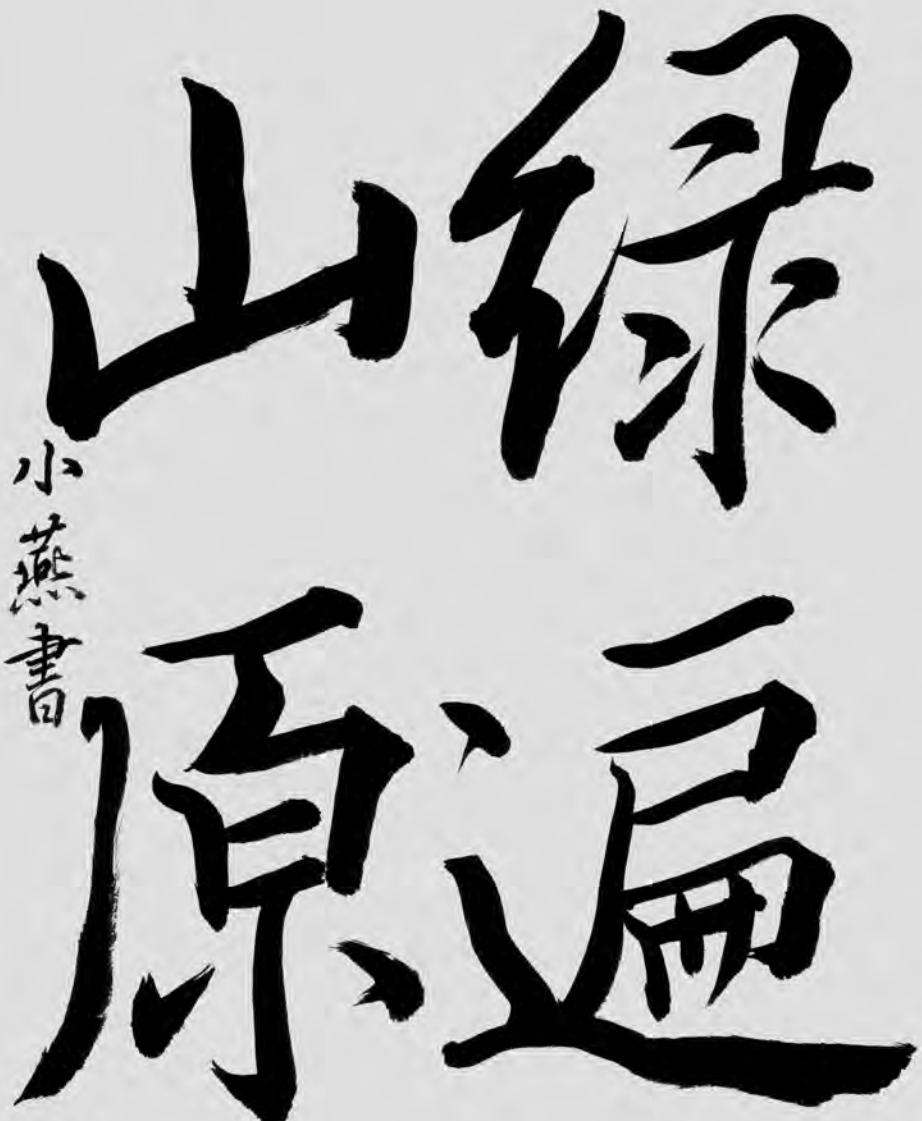
緑遍山原 (宋・翁巻)
(緑は山原に遍く)

緑遍山原白満川

子規聲裏雨如煙
緑は山や原を蔽い、白は
川にいっぱい、子規の
啼く声に雨はもやと煙る。

右記の詩の中から4字を選びました。全体の意味を捉えるところからが創作の一歩だと思います。今日は貫名菘翁の「松居遊見叟碑」を臨書して創作をしました。菘翁の熟成された極地の線質、無為天辺(むいてんぺん)とした書風とその境地を共に学び取りながら参考手本となるよう書作しました。

いろいろな書体・書風でチャレンジしてみるとよいでしょう。



緑遍山原 よみ(緑は山原に遍く)

書体=自由

習い方解説 (二)

大野祥雲

風吹新綠
(唐・白居易)
（風新綠を吹く）

風は木々の綠を吹き

「風」構えの中央は、くびれる形になる。特に2画は筆を吊り、穂先を利かし、伸びやかに曲げ、はねは押し上げるようだ。

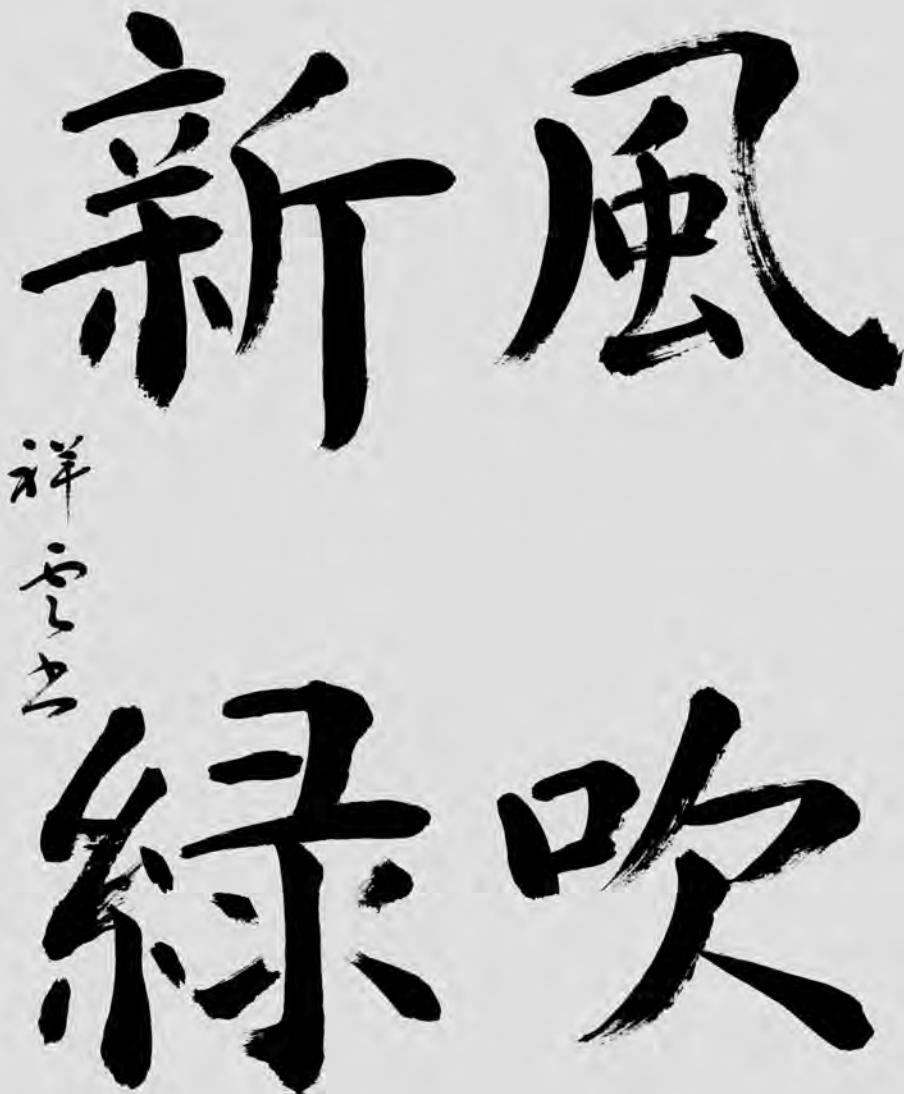
「吹」画数は少ないが、他の3字との調和のため伸びやかに。終画は引き抜く。

「新」偏と旁の力関係はほぼ互角だが、旁を少し下げて書くと整いやすい。

この文字も偏と旁からなり、しかも横幅の広い構成になります。この参考は許容の点画を入れ、書写で学習する線とは異っています。

風吹新綠 よみ(風新綠を吹く)

書体=楷書



かな規定 初段以上【六月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

大辻多希子選書

習い方解説 (二)

大辻 多希子

ほととぎすしのぶ卯月も過ぎにしき
なほ声惜しむ五月雨の空
(山家集)

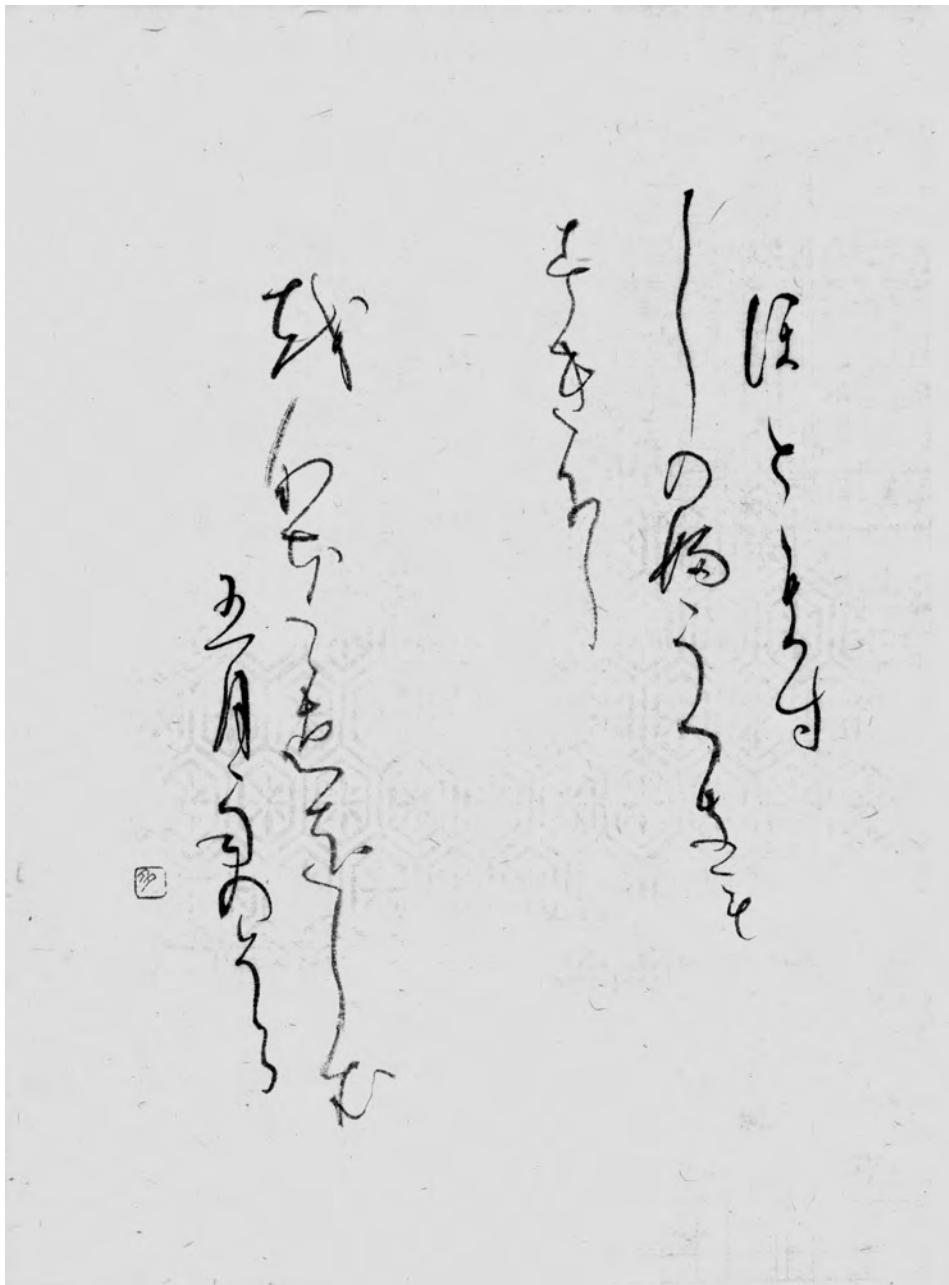
書作

書作品を見る時、まず線を見ます。線は字を形成する大切な要素となります。いろいろな線がありますが、潤いのある線や、絹糸をピーンと張ったような細くとも芯のある線が書けるようになれば良いと思います。

4月号より、かな規定の臨書の課題は、「粘葉本和漢朗詠集」になりました。その線は、鋒先がいつも線の中心にあり、あまり軸を傾けないで、転折もしっかりと書かれています。これが、かなの用筆の基本中の基本です。他の古筆についても同じだと思います。はじめから終りまでゆるみのない、気力のこもった線条で、優雅な深みのある表現をしたいものです。

よみ方 ほととぎす(支)すしのぶ(婦)卯月(うつ支)も(毛)過(春)ぎに(示)しを(越)

創作



かな規定 秀級以下

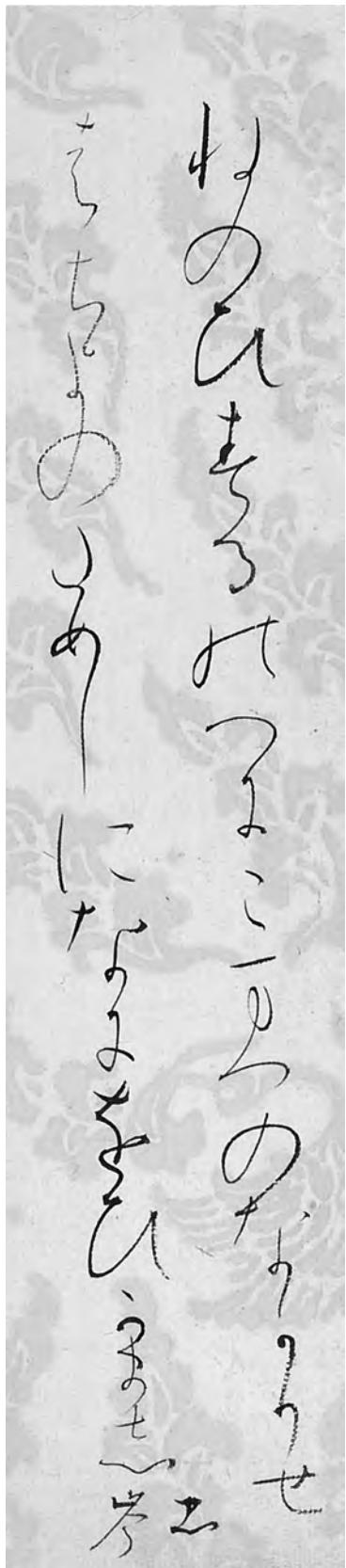
【六月十五日締めきり】

用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

◎四月号より課題を「粘葉本和漢朗詠集」に変更いたしました。

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大110%)



よみ方 ねのひす(春)るの(能)べに(尔)こま(万)つのなか(可)うせ
ば(者)ちよのた(多)めしになに(尔)をひか(可)まし(志) 忠岑

習い方解説 (二)

奥田 瑞舟

かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書

ふるさとの野辺の五月に咲く花の
白きよしなほなつかしきかな

(佐藤春夫)

作品を創作する時まず文字を撰
びますが、上手く決った時は作
品全体の收まりも良いと思います。
そして行間・潤渴・連綿等考慮
して書き上げます。今回は後半が
落ち着かず色々試しました。

筆を替えてみるのも良いと思いま
す。横作品の時は、少し小さめ
の筆を使います。

よみ方 ふるさとの野辺(邊)の(能)五月に(一)咲(佐)く(久)花の

白(し路)きより(利)な(奈)ほな(那)つか(可)し(志)き(支)かな(可難)

創作

出品券
貼付位置

*ヨコ形式に限る

辻元大雲



鶴來華表千年後
(鶴は華表に来る千年の後)
雲在丹崖萬壑間
(陳縡曾)
(丹崖に在り萬壑の間)

今回も7言2句です。鶴と雲共に瑞兆の気配を詠んだ句です。行書体を中心としてリズム感に留意しました。用具用材の中で筆の選択が中々難しいと思います。所有しているものに限りがあり、最適なものを選ぶことは大変です。使い慣れた筆は限られると思いまですが、普段はあまり使わない筆を試してみるのも表現の幅を広げる意味で効果的です。

*たて形式に限る

習い方解説 (二)

牧 泰濤

漢字条幅規定 秀級以下 [六月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

牧 泰濤選書



書体=自由

萬物靜觀皆自得 四時佳興與人同
(萬物の静観皆自得。四時の佳興人与同じ。) (程子)

「物事を静かに見つめれば何かと得心する。四季風物の面白味は人様と同じである」まさにそうですね。
前月と同じ筆です。墨量を多めに、少しうっくり書きました。「ゆっくり」といっても、手本を側に見ながらでは、線の勢いや行の流れはできません。各字の筆順を覚え込んで、半切紙に向かうことです。30~40枚は練習を。

習い方解説(二)

川島舟錦

大切なことは、ぼくが
ぼく自身の心と頭で
判断・決断する
そして今こそ、
生きつかって、この錦書

ペンについて
ボールペンひとつとっても、最近は0.1ミリごとに書き分けができますし、書きやすさにもすぐれています。選ぶのが大変です。サインペンのように、先がやわらかく弾力のあるものも、ボールペンと同じく0.1ミリ単位で、好みの太さで書くことができます。

万年筆、デスクペンを使っているのを見る機会が少なくなりましたが、小筆とボールペンの間にいるペンや万年筆。弾力をきかせて、リズムにのって気持ちよく練習しましょう。ボールペンやサインペンとは、一味も二味も違った線質、色の違いを楽しむことができます。

外国製万年筆もこの頃は、日本語書きに適した、固めのペン先もありますが、いろいろ試し書きをして好みのものを選ぶことが大切かと思います。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

書体=自由

用紙=はがきの大きさ(14×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 671

かな条幅部 師範 川崎 緑美
直筆のキリッとした線が清々しい。反面少々硬い感があるので、筆の弾力をもう少し生かすとよい。
◎かな条幅部総評 かなは流れが大切。流れは自然に動くことで生まれる。大小、左右への動き等過剰すぎると散漫になる。(洋子評)

春の小川はさらさら流る
岸のすみれやれんげの花に
匂いのそたく色づく
咲けよ咲けよとそよやまがら
絵美書

ペン字部 師範 川崎 緑美
爽快なりズムで、紙面を走るペ
ン先の音が聞こえてくるような見
事な線質。情景あふれ格調高い。
◎ペン字部総評 構成よく、行書
で丁寧に書かれた作品が多かった。
無理に連綿しないで、流れの呼吸
を大切にしましょ。(孝子評)



前衛書部 特選 石森 光季

リズミカルで、軽快な運筆で構成された明るい圧巻作。大成を期待する。

現代詩文書部 特選 北村 秀子

墨色と空間、線質での詩情表現が見事。つい紙面に道を求めて、表現にも挑戦して下さい。(仙岳評)



漢字条幅部 師範 菊山 美梢

淑やかな隸書で、心が和む。波磔を控え目にし、柔らかな渴筆で温和。充分な余白も効果的です。



◎漢字条幅部総評 下級は草書の不正確さが目立った。上級は横形式に不慣れな作と、効果的な作の出来不出来が顕著。(萬城評)



漢字部 師範 磯貝 清耀
爽やかな明るい雰囲気の作。軽快な運筆が紙面にリズムを醸し出していく、無理のない自然さを見せる。

◎漢字部総評 上級6文字表現平均作多し。多彩な表現に挑戦をしてほしい。(大雲評)



かな部 師範 小野 梨紅
シャープな線、大胆な構成が大成功。持ち味の字形の良さが効果的でモダン。印の过大と捺印要注意。誤字少なく概ね高度な仕上りで好ましい。(明子評)
◎かな部総評 誤字少なく概ね高握、墨量のバランスで殆どの人が問題解決となります。(明子評)

成功。持ち味の字形の良さが効果的でモダン。印の过大と捺印要注意。誤字少なく概ね高握、墨量のバランスで殆どの人が問題解決となります。(明子評)

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

漢字 (恵雅)
板橋 雅邦

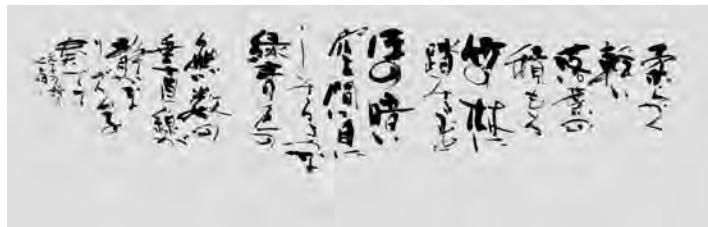


板橋 雅邦 書

180×60cm

「王績詩」

現代詩文書 (麗澤会) 秋山之扇



58×177cm

「竹」

◆やや上部に位置させ、直線主体の潤渴の変化がリズムを醸し出す。集団の構成も自然で詩情溢れる作。
(大雲評)

◆下部に明るさを持ち、柔らかく明るいタッチで書き進める。文字のデフォルメが心地良い作品となつた。
(鄭街評)

秋山之扇書

◆詩情が感じられる作。中央部の盛り上がりと下の空間が生きている。作品制作の面白さを感じさせる作品。
(紅瑠評)

◆横作品として、下部に余白を効果的に配置した構成見事。重厚な線質のなかに温かみを感じさせる作品。
(峰子評)

臨書 (紅瑠)

本多麻矢

「曹全碑」



135×70cm

本多麻矢 臨



部分拡大

◆紺紙に金泥で曹全碑の正確着実な姿を追う。一貫した筆致が呼吸の乱れも見せず、完成度高い作。
(大雲評)

◆全紙に18行の整正と書かれた曹全碑。搖るぎない集中力に敬意を表します。
(鄭街評)

(紅瑠評)

◆藍紺紙に金泥墨を駆使した曹全碑全臨作品。原帖の特徴をよく理解し、最後まで集中した臨書態度立派。
(峰子評)

(紅瑠評)

◆長鋒細線を駆使した3行の行草書。少々流れ過ぎる感もあるが、余白美しく明るい作品に仕上つた。
(鄭街評)

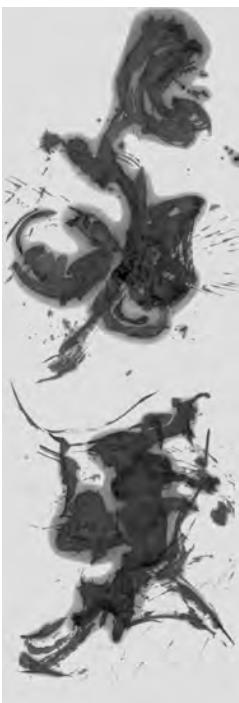
◆やや厚手の紙に濃墨の潤渴を生かしたリズムが心地よく響いてくる作。筆の開閉がやや不足したか。
(大雲評)

◆深くくい込むねばり有る線条が良い。処々に筆先の利いた鋭い線がその線条を引き立て魅有力ある作品。
(峰子評)

◆多彩な造形と線質から生まれる軽快なりズムが心地よい。行間の白さがさわやかに響いてくる見事な作品。
(紅瑠評)

「関戸本古今和歌集」

前衛書 (月華社)
中塩朱華
「ほのか」



180×60cm

◆淡墨の滲みが効果的で、量感あふれる豊かな線質を生み出している。やや下部が重い感あり。

(紅瑠評)

◆独特的青淡墨の潤渴を効果的に生かし、重厚さを感じさせる作。墨色やや獨りあり、更に研究を。

(大雲評)

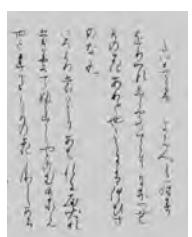
臨書 (大雲) 神谷雲卿



神谷雲卿臨

68×135cm

部分拡大



- ◆関戸本の線の強さを出して見事。後半になるほど筆先も利いてリズム感も上昇。(峰子評)
- ◆原帖の特徴をよく観察し、通貫した安定感ある臨書。料紙の色調もよく調和し、技術の安定を感じる。

(大雲評)

- ◆非常に躍動感があり、終始一貫呼吸が安定。技術の高さを感じる。作者の多岐に亘る挑戦心に敬意を表する。

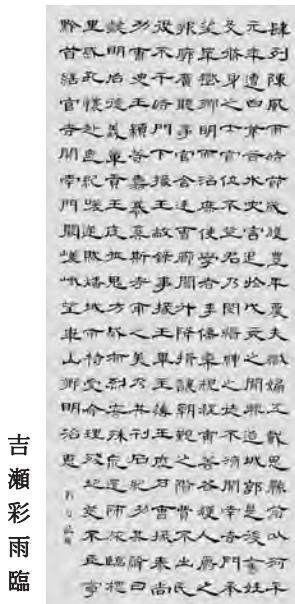
(鄭街評)

- ◆関戸本古今集の特徴である大胆な側筆、墨継の変化、流麗な連綿等を的確に捉えた見事な臨書作。書学の深さが表出してい

る。

「英峰会」吉瀬彩雨「曹全碑」

中塩朱華書



吉瀬彩雨臨

130×55cm

- ◆美しい墨色が効果的な作品。上部の明るさ、下部とのバランスの変化が課題か。センスの良さが光った。

(鄭街評)

- ◆滲みと飛沫が呼応して生氣ある作。今にも飛び立とうとしている鳥を追いかけるように見えて楽しい。

(峰子評)

- ◆大らかな波磔が印象的な曹全碑。墨量豊かで、横に展開する姿は見る者に安心感を与えてくれる。

(鄭街評)

- ◆左右の均齊のとれた字形、美しい波磔など八分隸の特徴をよく捉え秀逸。淡い色雅仙紙と相まって品格ある作品となつた。

(紅瑠評)

千葉竹浪	英峰佐藤	蓮紅	蓮紅	蓮紅	「前衛」	漢字	漢字
叙舟	小林	容洲	阿部	田村	漢字の部	漢字	漢字
桂香	秀水	蓮紅	大友	坂井	漢字	漢字	漢字
舟美	大雲	大雲	大雲	秀水	漢字	漢字	漢字

千葉竹浪	英峰佐藤	蓮紅	蓮紅	蓮紅	「前衛」	漢字	漢字
叙舟	小林	容洲	阿部	田村	漢字の部	漢字	漢字
桂香	秀水	蓮紅	大友	坂井	漢字	漢字	漢字
舟美	大雲	大雲	大雲	秀水	漢字	漢字	漢字

千葉竹浪	英峰佐藤	蓮紅	蓮紅	蓮紅	「前衛」	漢字	漢字
叙舟	小林	容洲	阿部	田村	漢字の部	漢字	漢字
桂香	秀水	蓮紅	大友	坂井	漢字	漢字	漢字
舟美	大雲	大雲	大雲	秀水	漢字	漢字	漢字

創作の部	漢字						
〔特選候補者〕	かな						
〔創作の部〕	森田	藤原	藤原	藤原	藤原	藤原	藤原
〔漢字〕	もく	三枝	三枝	三枝	三枝	三枝	三枝
〔現代詩〕	如月	芳江	芳江	芳江	芳江	芳江	芳江
〔現代詩〕	延	延	延	延	延	延	延
〔前衛〕	漢字						
〔漢字〕	漢字						

総出品点数
75点

漢字研究部

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



豐田翠玉

右払い 良く伸び、終筆の先に余韻を感じます。また、運腕大にして、切れの良い線が余白を生かした明快な作です。落款もバランスよく書かれていますが、隸書作品には行書または草書がマッチするのではないかと考えます。

◎漢字研究部総論

あまり書きなれない書体とみて、入選で

きなかつた作品の中には字形が細長で横書きが右上りの楷書の様な作品が多數見られました。また、終筆を払う方向が上部に向っている木簡の如くの作品も少なくありませんでした。八分を右に払った先の空筆は、水平からむしろ右下へ向うつもりで書くこと良いと思ひます。隸書は、楷、行、草のルーツです。温故知新の思いで、積極的に取り組んでほしいと考えます。



一白邑佳叙和
琴簔里波孝香

律惠節久惠信
子仙子子泉代

惠蒼朱朋岳春
子舟音美舟洋

美 翠 美 玲 楊 美
千 代 芳 艸 子 風 梢

